

図書館だより

No.
02
2025.04

裏見の滝自然花苑しゃくなげ祭り（大村市）

もくじ

「勝利を呼ぶのは寿司か牛タン定食か」
学長 浅田 和伸 ————— 02

教員寄稿

「岩波文庫とレクラム文庫」
経営学部国際経営学科 大澤 裕次 ————— 03

「これからの時代に必要な“仲間”のかたち」
実践経済学科 盧 昭穎 ————— 03

「ポピュラー・カルチャー研究の源流」
国際社会学科 門部 昌志 ————— 04

「急がず、焦らず、耐えていく力!!」
看護栄養学部看護学科 重富 勇 ————— 04

佐世保校×シーボルト校 インフォメーション ————— 05
図書館利用案内 ————— 06

「図書館の本を読むということ」
佐世保校附属図書館長 綱 辰幸 ————— 08

「知の迷宮探索への誘い（その1）」
～「リュケイオン（Lykeion）」に始まる大学図書館の意義～
シーボルト校附属図書館長 河又 貴洋 ————— 08

大瀬崎灯台（五島市）

勝利を呼ぶのは 寿司か牛タン定食か

学長 浅田 和伸



◇「言葉の力」は大学生の必需品

言語は、知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあります。学生の皆さんには、読解力や表現力を高めるためにも、本や図書館と仲良しになって欲しいです。

私もかなり本を読みます。その際に心がけていることの一つが「多く聞いて疑わしきを闕（か）き、慎みてその餘（よ）を言え、則（すなわ）ち尤（とがめ）寡（すくな）し」という論語の言葉です。要は、幅広く意見を聴いたり情報を集めたりして、その中から不確かなことを除き、確かなことだけを自分のものにするのが判断を誤らない道だということ。例えば、人によって意見が分かれるような問題については、一方だけでなく両方の考えを知った方がいいです。

◇どうせ読むなら楽しい方がいい

どうせ本を読むなら、堅苦しくて難しいより、楽しく分かりやすい方がいいですね。当然です。同じ食材を使っても、美味しそうな料理の方が食欲も進みます。

高校時代、数学研究同好会で、数学が苦手な後輩たちのための教材を作りました。教科書のマジメな例題と違い、最近で言えば「うんこ漢字ドリル」に近いようなふざけた問題ばかりにして。結構評判良かったんですよ。

大学生、大学院生の皆さんにとって、レポートや論文の書き方は、できるだけ早く身につけるべき「基礎」です。いろんな教材があります。ぜひ早めにマスターしてください。

一例として、『これからレポート・卒論を書く若者のために（第2版）』と『これから論文を書く若者のために（究極の大改訂版）』を紹介します。どちらも著者は東北大学の酒井聡樹さん、発行は共立出版です。前者が学部生、後者が院生向きでしょうか。

著者はサッカーの大ファンで、前者では「なぜ日本代表は強いのか。それは寿司を食べているからである」、後者では「なぜベガルタ仙台は強いのか。それは牛タン定食を食べているからである」という仮説の検証などを例にして、楽しく、かつ実践的な解説をしてくれていま

す。著者自身が楽しみながら書いていることが伝わってきます。

ついでに『読めば分かるは当たり前？ 読解力の認知心理学』（犬塚美輪著、ちくまプリマー新書）も紹介しましょうか。「読んで理解する」とはどういうことか、どうすればつまづきを解消できるのかなどについて、心理学の研究成果を通して紐解きます。ちくまプリマー新書はヤングアダルト向きですが、良書が多く、私も密かに愛読しています。

◇無意識の「思い込み」に気づく本

私は「疑う力」「信じない力」がとても大事だと考えています。その観点から次の2冊をお薦めします。まず『ファクトフルネス 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』（ハンス・ロリング、オーラ・ロリング著、日経BP）。2019年に出てベストセラーになりました。我々がいかに「思い込み」に囚われているかを思い知らされます。

もう1冊は『「欲しい!」はこうしてつくられる 脳科学者とマーケティングが教える「買い物」の心理』（マット・ジョンソン、プリンス・ギューマン著、白揚社）。こちらは2022年の本。「我々が食べているのはメニューであって食べ物ではない」ことが分かります。こうやって並べてみると、日本語版の書名の副題って、ちょっと説明し過ぎですね。

◇歴史も学んでほしい……未来のために

残り僅かなスペースで、歴史に関する本を2点紹介します。一つは『きけ わだつみのこえ - 日本戦没学生の手記 -』（岩波文庫）。皆さんと同じくらいの年の人たちが、命を散らす前に書いたものです。私も大学時代に初めて読み、今も大切に持っています。もう一つは広島が舞台の漫画『はだしのゲン』（中沢啓治著）。いくつかの版が出ていますが、私は中公文庫（全7巻）で読みました。戦争に関する本は、人によって評価が分かれるものが多いです。これらについても、様々な見方があることも知った上で読んでいただくのが良いと思います。

教員 寄稿



岩波文庫とレクラム文庫

経営学部国際経営学科 大澤 裕次

入学、進級、おめでとうございます。皆さんは、本は好きでしょうか。学生時代は、ぜひ読書に勤しんで下さい。本学図書館には膨大な蔵書があります。

大学生の読書と言えば、筆者の世代は岩波文庫が定番でした。古今東西の名著を集めた文庫本です。実は、岩波文庫には、モデルがあります。ドイツのレクラム文庫（写真の黄色い本）がそれです。岩波文庫の巻末には、「読書子に寄す—岩波文庫発刊に際して—」と題する文章が必ず掲載されており、その中に「かのレクラム文庫に範をとり」と書かれています。このレクラム文庫は、万人が読むべき世界的な名著・古典をなるべく安価に提供するために装丁は至ってシンプル、カバーはありません。岩波文庫は、このレクラム文庫をモデルに昭和2年7月に創刊されました。私が高校生のころまでは、岩波文庫にもカバーがありませんでした。

今回、ご紹介したいのは、マックス・ウェーバー著『職業としての学問』（ドイツ語原題“Wissenschaft als Beruf”）です。もともとはウェーバーがミュンヘンで行った講演です。私が大学生の頃にこの書物を手に取り、岩波の翻訳を読みました。難解でよく理解できませんでしたが、ハッとさせられる文章に出会いました。「学問的認識一般に通用する重要手段（中略）、その手段とは概念である」という一文です。社会科学とは、複雑な社会事象を「概念」という道具を用いて分析する学問であることがおぼろげながらも理解できたような気がします。そのおよそ10年後、ドイツの大学に留学することになり、今度はレクラム文庫の原書を写経よろしく全ページを手書きで筆写しました。幾分古めかしいドイツ語でしたが、自分の中では強い達成感があり、語学に対する自信につながったようにも思います。

大学図書館は、知的格闘に取り組むアリーナであると同時に、そうした出会いの宝庫でもあります。学生の皆さんにも、書物を通じた素敵な出会いがありますように。

これからの時代に必要な“仲間”のかたち

実践経済学科 盧 昭穎

現代の社会では、モノだけでなく「人材のコモディティ化」が進んでいます。つまり、「誰でも代わりがある」時代になっているのです。そんな時代において、自分の価値を発揮し続けるためにはどうすればよいのか。本書『君に友だちはいらない』では、その答えを「よいチーム」の作り方という視点から提示しています。

本書のタイトルに驚くかもしれませんが、決して「友だちを作るな」という意味ではありません。むしろ、「馴れ合いの関係ではなく、共に成長し、結果を出せる仲間を作れ」というメッセージが込められています。たとえば、黒澤明監督の名作『七人の侍』のように、強い目的意識を持った少数精鋭のチームが大きな成果を上げることができるのです。

本書では、東日本震災時の透析患者救出チーム、バングラデシュの教育改革プロジェクト、アメリカのビジネス界のリクルーティングなど、実際の事例をもとに、結果を出せるチームとは何かを解説しています。特に印象的なのが「ネットワークの棚卸し」という考え方です。自分の周りの人間関係が、自分の人生を決定づけているとしたら、果たして今のままでいいのか？ もし現状に満足していないなら、環境を変え、新たな仲間を見つけることが必要です。著者はそのための具体的な方法を提示し、読者がすぐに行動できるように導いてくれます。詳しい内容は本書に譲りますが、これから社会に出る皆さんにとって、どのような人と組み、どのように成長すればよいのかを考えるための実践的な指南書です。

著者の瀧本哲史氏は、本書のほかにも『僕は君たちに武器を配りたい』『武器としての交渉思考』『ミライの授業』など、示唆に富んだ著作を数多く残しています。どの作品も同じジャンルの本と比べて読みやすく、具体例を交えながら本質を突いた鋭い視点が印象的です。これらの著作を通じて、不確実性の高い時代を生き抜くための考え方や戦略を学ぶことができ、読むたびに新たな気づきを得られるでしょう。ぜひ本書とあわせて手に取り、自分自身の未来を切り拓く一歩を踏み出してみてください。

教員寄稿



ポピュラー・カルチャー研究の源流

国際社会学科 門部 昌志

ポピュラー・カルチャーはポピュラーである。しかし、ポピュラー・カルチャー研究はポピュラーではない。その研究にはどんな歴史があるのだろうか。そんな疑問を解く手がかりとなるのがジョン・ストーリーの著作である。

ストーリーによれば、「近代以降のポピュラー・カルチャー研究は、マシュー・アーノルドの仕事とともに始まる」(1)。とはいえ、アーノルドが直接ポピュラー・カルチャーについて述べたわけではない。アーノルドは、ポピュラー・カルチャーを文化という広大な領域に位置づける方法を創始した。

アーノルドは、F.R. リーヴィスに影響を与えた。大衆文明と大衆文化は、これまでの価値をくつがえそうとしており、混乱をもたらす恐れがある。この「脅威」に対し、リーヴィス派は大衆文化に「抵抗する訓練」を学校に取り入れようとする声明書を執筆した(2)。

レイモンド・ウィリアムズは、「ふつうの」人々の「生きられた経験」、「日常的な実践との日々のやりとりの中で作られるものとしての文化」を主張する点において、リーヴィス主義と異なっている(3)。そしてホールとワネルは、大半の高級文化は良いものだが、一部のポピュラー・カルチャーもまた良いものであるとした(4)。

本書は学際的な広がりをもっている。四章ではマルクス主義が、五章では精神分析が、六章では構造主義とポスト構造主義が取り上げられている。そして七章では階級が、八章ではジェンダーとセクシュアリティが、九章では「人種」が論じられている。

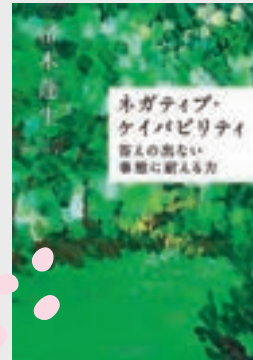
注

(1)ジョン・ストーリー、鈴木健・越智博美訳『ポップ・カルチャー批評の理論 現代思想とカルチュラル・スタディーズ』小鳥遊書房、2023年、41頁。

(2)同書、52頁。

(3)同書、94頁。

(4)同書、102頁。



急がず、焦らず、耐えていく力!!

看護栄養学部看護学科 重富 勇

この本は、新聞雑誌などで紹介されよく目にすることがありました。「ネガティブ・ケイパビリティ」のタイトルと著者は小説家で精神科医であることから有無を言わず本を手にとったのです。ネガティブ・ケイパビリティは、遡ると詩人キーツが「不確かの中で事態や情況を持ちこたえ、不思議さや疑いの中にいる能力は、相手を思いやる共感に至る」と述べ、精神科医のビオンは精神分析の中で必要性を結論付けています。ずいぶん前からその考え方はあったということです。そして、消極的でネガティブな負の力は、確かに自分にはあると思ったのです。私はずいぶん長く病院で精神科看護に携わってきました。そこでは、状況が好転しない、先行きが見えないことで焦りばかりが先行し決して良い結果につなげていなかったのです。事態を静観する、好転する待つことの忍耐力が求められているのです。

私たちの日常では、答えを出すことが求められ問題解決に焦点が当てられ、的確かつ敏速に対処する能力が養成されます。もちろんそれは自分を成長させることであり社会からの要請でもあります。本の中では才能や才覚、物事の処理能力をポジティブ・ケイパビリティと表現しています。もともと人の脳は分かろうとする働きがあり、物事をポジティブに考えるようにできています。しかし、情報社会のなかで不確実で答えのない問題に直面した際にそうではられません。どこか自分を崩してしまいます。

もともと備わっている能力に困難をしなやかに乗り越える力のレジリエンスがあります。未知のわからない混沌とした人生において、答えの出ない事態に耐える力を持つには、心の中を空っぽにしてみてもうどうでしょうか。この本はそういう考えを教えてください。ヨガであったり、瞑想でしょうか。私は、温泉でぼんやりして何も考えないことです。そして、希望があることです。

ネガティブ・ケイパビリティ ～ 帚木蓬生（はきぎほうせい） 朝日新聞出版

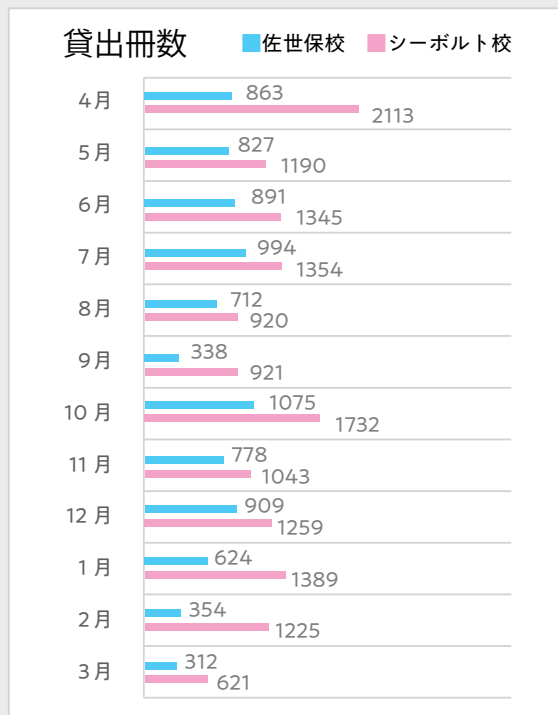
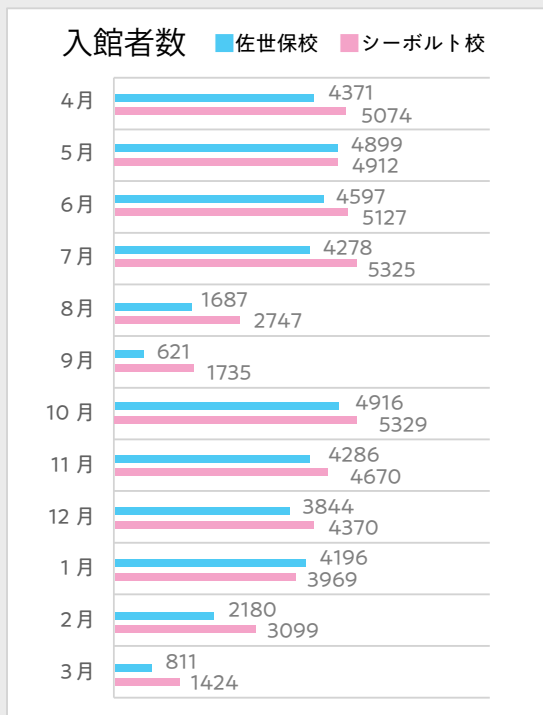


佐世保校 × シーボルト校 インフォメーション 図書館利用状況



入館者数及び貸出冊数

※入館者数、貸出冊数：学生、教職員、外部利用者全ての合計です。



貸出資料ランキング

佐世保校

- 1 あなたのTシャツはどこから来たのか？：誰も書かなかったグローバリゼーションの真実／ピエトラ・リボリ著
- 2 日経経済知力テスト公式テキスト&問題集／日本経済新聞社編 2024-25年版
- 3 成瀬は天下を取りにいく／宮島未奈著
- 4 自動車の社会的費用／宇沢弘文著
- 5 稼ぐまちが地方を変える：誰も言わなかった10の鉄則／木下斉著
- 6 問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション／安斎勇樹、塩瀬隆之著
- 7 ガストロノミーツーリズム：食文化と観光地域づくり／尾家建生；高田剛司著
- 7 シームレス物流が切り開く東アジア新時代：九州・山口の新成長戦略／藤原利久、江本伸哉著
- 7 スピノザの診察室／夏川草介著
- 7 日経 TEST 公式テキスト&問題集 2023-24年版／日本経済新聞社編 2023-24年版
- 7 物流を学ぶ：基礎から実務まで／山本裕、男澤智治著

シーボルト校

- 1 TOEIC L&R テスト文法問題でる 1000 問／TEX 加藤著
- 2 公式 TOEIC Listening & Reading 問題集／ETS 著 10
- 3 強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的機能関連図／河野あゆみ編集；草場鉄周編集協力
- 4 公式 TOEIC listening & reading 問題集／Educational Testi
- 5 レイニンガー看護論：文化ケアの多様性と普遍性／マデリン M. レイニンガー著；石井邦子
- 6 ストレングスからみた精神看護過程＋全体関連図，ストレングス・マッピングシート／萱間真美編集
- 7 看護理論家の業績と理論評価／筒井真優美編集
- 7 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図／井上智子，窪田哲朗編
- 9 管理栄養士国家試験受験必修過去問集／女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会編 2024
- 9 成瀬は天下を取りにいく／宮島未奈著

図書館利用案内



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。佐世保校、シーボルト校にはそれぞれ附属図書館がありますが、県立大生はどちらの図書館も利用することができます。



【入館するには】

入館する時は、学生証が必要です。入館ゲートで、学生証を読み取らせると、ゲートが開きます。忘れたときは、スタッフにご相談ください。（シーボルト校は、呼び鈴を鳴らしてください。）



【開館時間】

- ・月～金 8:30～22:00
（長期休業中、休講日は9:00～22:00）
- ・土曜日 9:00～17:00

【休館日】

- ・日曜日
 - ・蔵書の点検等に必要な期間
 - ・国民の祝日
 - ・大学閉校日
 - ・入学試験等の実施期間
 - ・その他、法で定められた休日・年末年始
 - ・その他、館長が特に必要があると認めた日
- ※臨時休館日は、図書館掲示板、HP、学内連絡メール等でお知らせします。

【貸出冊数と期間】（ ）はシーボルト校

	貸出冊数	貸出期間
学 生	5 冊	2 週間
大 学 院 生	20 (10) 冊	1 か月 (4 週間)
科目等履修生	3 冊	2 週間
特 別 聴 講 生	5 冊	2 週間

※休業期や卒業論文用の長期貸出については、その都度お知らせします。

【カウンター】

図書館利用に関することは、カウンターのスタッフにご相談ください。



（佐世保校は2階にあります。）



（シーボルト校は1階エントランスホールにあります。）

【佐世保校図書館の主な施設】

ラーニングcommons（1階）



自学やグループ学習、ゼミ・卒論等でのプレゼンの場として気軽に利用できます。

インターネットコーナー（2階）



学内外の図書館の蔵書検索のほか、電子ジャーナル及び各種データベースへのアクセスができます。印刷も可能で、論文、レポート作成にご利用ください。PCは15台。利用する場合は、カウンターに学生証を出して、手続きが必要です。

個人閲覧室（4階）



学習・研究のために利用できる個室が7室あります。利用する場合は、カウンターに学生証を出して、手続きが必要です。

【シーボルト校図書館の主な施設】

ラウンジ（1階）



飲食ができるコーナーです。飲料は密閉できる容器で、おにぎり、パン等の軽食が可能です。

AVコーナー（1階）



情報検索用PCが10台設置されています。ネット閲覧のほか各種電子コンテンツへのアクセスもできて、印刷も可能です。さらに、AVブースが14席あり、BD、DVD、LD、VHS等の資料を視聴できます。カウンターでの利用申込みが必要です。

グループ閲覧室（2階）



グループ学習や少人数授業などで自由に利用できます（2室）。このほか、個人閲覧室が7室あります。（カウンターでの申込みが必要です。）

図書館の本を読むということ

佐世保校附属図書館長 綱 辰幸

大学図書館は、所属する学生や教員に対して資料の提供・保存を行うことを主な使命としています。つまり、大学図書館は学生や教員が必要とする情報を提供する場所であり、そのような機能を備えていることが求められます。

情報を得る手段として、昨今では「コスパ」や「タイパ」が重視されており、多くの人がインターネットを活用していると考えられます。求める情報の内容にもよりますが、インターネット上では追加費用なしである程度の情報を手に入れることが可能です。

一方、図書館に足を運び、紙の本を読むことは無料でできるものの、図書館までのアクセスや資料の検索には時間がかかります。しかし、図書館で目的の本を探しているときに、その本の周辺に置かれている関連書籍に偶然出会うこともあります。こうした偶然の出会いによって、思いがけない知識が得られることもあるのです。

また、紙の本には厚みがあり、今すぐ必要ではない情報も多く含まれています。そのため、必要な情報にたどり着くまでに時間がかかるかもしれません。しかし、そこから思いがけない副次的な「情報」を得ることができ、それは今すぐ使わなくても、数年後、何かの役に立つ可能性があります。

たとえば、明日の授業や次のレポートには関係がないと思えるような内容でも、「こんな本があったな」「あの本にはこんなことが書いてあった気がする」といった記憶が、5年後、10年後にあなたの人生を豊かにするきっかけになるかもしれません。

スティーブ・ジョブズ氏は、2005年スタンフォード大学の卒業式で行った有名なスピーチの中で、次のように語っています。

「将来を見据えて点と点をつなぐことはできません。振り返って初めて、それらがつながっていたことに気づくのです。だからこそ、私たちは、今やっていることがいざつなげると信じるしかないのです。」

将来の道筋が見えにくい現代だからこそ、比較的自由な時間のある大学生の間に、さまざまな経験をしていただきたいと思います。その中に、「図書館で本を読む」という体験もぜひ加えてください。振り返ったとき、その経験があなたの未来の活動とつながる「点」になっているかもしれません。

知の迷宮探索への誘い（その1）

～「リュケイオン (Lykeion)」に
始まる大学図書館の意義～

シーボルト校附属図書館長 河又 貴洋

はじめまして、今年度よりシーボルト校附属図書館長に就任しました河又貴洋と申します。今回はこのような場を借りてご挨拶とともに、大学の図書館について考える機会を提供したいと思います。

なぜ大学に図書館があるのか。ギリシャ思想においてソクラテスは対話 (Dialogue) を重んじ、緊密な人間関係の中に「先生」と「生徒」との「仲間」としての「学びの場」、すなわち「ソクラテスの仲間」(Socrates's Companion) を創造していきます。そして、その弟子であったプラトンは、アカデメイア (Academia) という哲学の「塾」を設立し、これが今日の学究的な世界、「学派」を意味する言葉になります。さらに、その弟子であったアリストテレスは、リュケイオン (Lykeion) という大きな図書館をも備えた「学校」を創設します。これが今日の大学、学校の原型となるわけですが、このような「学びの場」の制度化・整序化にあって、大学では「ゼミ」あるいは「研究室」が少人数による対面的な教育の場として自由闊達に議論をする「ソクラテスの仲間」の役割を担い、講義と演習 (実習) は底堅い基礎教養と優れた設備 (知の集積装置としての図書館を含む) による専門知識・技能の修得のプログラムということになります。そして現代ではインターネット (Internet) という地球を覆い尽くす電子ネットワークの発達で地球自体をも「電子脳」に変えるほどのヴァーチャル (仮想的というよりも実質的) な世界に包み込んでいくかの如く、知が情報としてネットの中を駆け巡っています。したがって、大学の図書館自体も知の集積装置の一部として、電子ネットワークに接続され、外部の情報にもアクセスできる環境が整えられています。となれば、大学の図書館は知の集積地・連結ポイントとして機能する場でもあるのです。

さて、それでは大学図書館をどのように捉える (使いこなす) か、今回は「認知論的学習」と「存在論的学び」の観点から、図書館を捉え直してみたいと思います。

佐世保校附属図書館
〒858-8580 佐世保市川下町 123
TEL.0956-47-2191 (代表)
<https://sun.ac.jp/center/lib/sasebo/>

開館時間

平 日：午前8時30分～午後10時まで (学生の休業期間中は午前9時～午後5時まで)
土曜日：午前9時～午後5時まで 休館日：日曜日・祝日・大学閉校日など

シーボルト校附属図書館
〒851-2195 西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1
TEL.095-813-5500 (代表)
<https://sun.ac.jp/center/lib/siebold/>